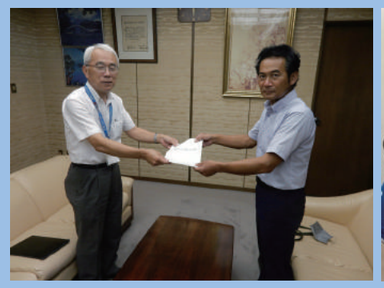
各単組の評議員会・要望活動の様子

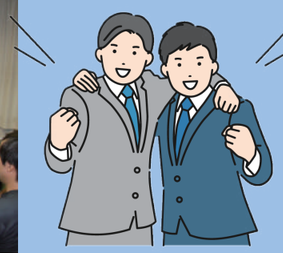
丸亀市教委への要望活動（丸教協）



三木町教委への要望活動　9/22

小豆郡教職員会 評議員会　9/8

坂出市教職員会 評議員会　9/14



大川教職員協議会 評議員会　9/22

会員一人一人の声を聞き、集め、そして届けています！

香川県の結婚支援の取り組みとして「かがわ縁結び支援センター」をご紹介します。香川県が公益財団法人かがわ健康福祉機構に委託して、

① 縁結びマッチング・・・いわゆる１対１のお見合い事業

② 縁結びイベント・・・いわゆる婚活イベントの開催などの結婚支援

を行っています。香教連は、令和３年８月１日よりこの協力団体として認定されました。

ワンコイン婚活！

詳細と申込みはこちら
↓

日　時　令和５年 10 月 29 日（日）13：00～16：00
場　所　香川県社会福祉総合センター７Ｆ
　　第２中会議室
　　（高松市番町一丁目 10 番 35 号）
対　象　２０歳～35 歳の独身男女
定　員　男性 10 名　女性 10 名

ただ今７周年記念新規登録キャンペーン中です！
詳しくはＨＰ http://ems-kagawa.jp/

９月　業務抄

５日　仲多度郡善通寺市教職員協議会　評議員会
７日　日本教文研教育問題審議会
８日　木田郡教職員協議会
　　小豆郡教職員会
　　丸亀市教職員協議会　　評議員会
９日　第２回給与法制局会議
１２日　香川県教委　定例会
１４日　坂出市教職員会　評議員会
２２日　大川教職員協議会　評議員会
　　三木町教委要望　木教協
２６日　全日教連　中央要請行動
２９日　香教連マネーセミナー

会員の声

「不親切教師のススメ」の本のご紹介ありがとうございました。最近落ち着いて本を読む時間もない日々でした。やっと夏休みのスキマ時間で、読むことができました。揃えるのをやめる、時代遅れの根性論排除や個性や発達の違いを理解するなど、読み進めていくうちに今まで常識と思ってしていたことが何と非常識なことだったのかと思い知らされました。また今年の夏の高校野球、長髪の高校球児「慶応高校」の活躍と本の内容がリンクしているような気がしてきました。自主性・主体性を向上させる本来の目的を見失ってはいけないと改めて考えさせられました。ありがとうございました。まだ読んでいない方、ぜひお勧めですよ！【ありがとうございます。参考にしていただけたら幸いです。図書カードプレゼントいたします。】

10月号の感想待ってます→

第 20 期第 2 回教育問題審議委員会開催

１時間ほどの動画になっています。是非ご覧下さい！

ＱＲコードを読み込むと youtube にアクセスできます。　↓↓↓↓↓

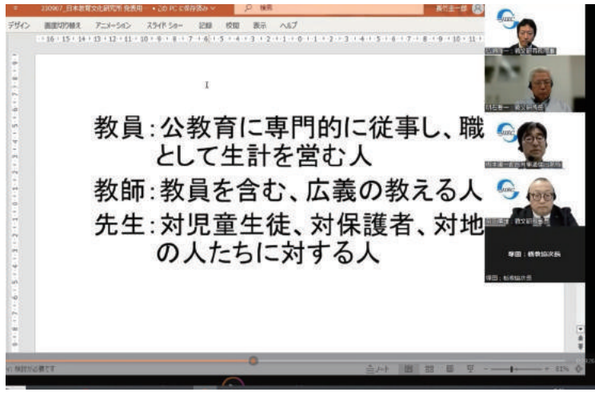
９月７日（木）、ＺＯＯＭによるＷＥＢ会議にて、第２回教育問題審議会が開催された。時事通信出版局・出版営業部長である坂本建一郎氏を講師に迎え、「教科書ベストセラーの変遷に見る〝期待される教師像〟」の演題のもと、ご講演いただいた。

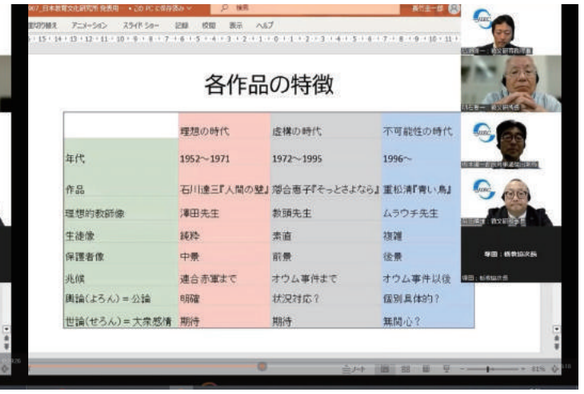
時代が変わるにつれ、教師像がどのように変わっていっているのかについて、当時のベストセラーとなった書籍に登場する教師をもとに、「理想の時代」「虚構の時代」「不可能性の時代」と銘打ち、それぞれの特徴を述べられた。

以下紹介された書籍は以下の通り。

・「人間の壁」　石川達三
・「そっとさよなら」　落合恵子
・「青い鳥」　重松清

講演の内容は、ＹＯＵＴＵＢＥにアップしている。是非一度見ていただきたい。





特別じゃない特別支援教育を⑮

がまぐち先生

先月に引き続き、「書体デザイナー」の高田さんに関して。大学を卒業して３２年近くデザイナーとしてたくさんの書体を開発してこられた方で、現在はモリサワで教育現場や自治体を中心に書体の重要性や役割、その使い方のポイントなどの普及・推進する仕事をされています。

世の中には無数の文字が溢れかえっています。２０１６年に、リリースされた「ＵＤデジタル教科書体」もそのうちの一つの書体ですが、他の書体とは決定的に違う部分があります。それはＵＤデジタル教科書体が、健常者のこどもたちだけでなく、ロービジョンやディスレクシアの子どもたちにとっても「見やすく、読みやすく。間違えにくく、伝わりやすいこと」を目指して作られた教科書体であるということです。

開発には様々な問題が生まれ、一つ一つを克服していくことでこの書体は完成していきました。例えばロービジョン研究の第一人者・中野泰志先生より「そもそも、あなた達は障害者の方達が何に困っているのか、当事者から話を聞いているのですか？」「ただ読みやすいけど、これじゃ学校や拡大教科書では使えないですよ。」このやり取りから筆者は「文字の形状や画数などは学習指導要領の字系に沿いながら、ゴシック体のように線が太く、均一で、ロービジョンの子ども達に読みやすい書体。それができれば、障がいのある子ども達の教育格差の解消や、先生方の教えやすさにも役立つのではないだろうか。」「低視力状態だと、元の形状が思わぬ形に変化することがわかってびっくりです！離すならしっかり離す。出すならしっかり出さないとダメですね。」

こういった経過を辿り、構想からリリースまで８年の歳月をかけてＵＤデジタル教科書体は開発されました。

最後にエピソードを一つ。ディスレクシアの男の子がいました。その子は普通の本や教科書では文字が上手く読めなくて『どうせ俺には無理だから』といっていつも途中で読むのを諦めていたんです。マルチメディアデイジー教科書でも彼の読みづらさは解消できなかったと言います。ある時、試しに教材のフォントを変えてみたんです。そしたら教材を見た瞬間、その子が『これなら読める！おれ、バカじゃなかったんだ！』って。暗かった顔がぱあっと明るくなって、その顔を見た時、私、涙がこみ上げてきてしまって……。

フォント一つで生活ががらっと変わることがあります。何に困っているのか、どの程度困っているのか、詳しく知ることが大切なのですね。

来月は、「学校で困っている子どもへの支援と指導」についてご紹介します。